

# 紀 要

## 第 3 号

---

### 目 次

序

1. お米を作りだしたころ……………(浜崎悟司・細川修平・奈良俊哉)
  2. 滋賀県下の方形周溝墓の“供献土器”について……………(吉田秀則)
  3. 手焙形土器雑想  
—葛籠尾崎湖底遺跡出土品に寄せて—……………(小竹森直子)
  4. 三つの古墳の墳形と規模  
—近江における古墳時代首長の動向および特質メモ作成のために—  
……………(用田政晴)
  5. 野洲川下流域の古代豪族の動向  
—近江古代豪族ノート4—……………(大橋信弥)
  6. 満願寺廃寺出土瓦の産地……………(三辻利一・北村大輔・北村圭弘)
  7. 信楽と丹波……………(松澤 修)
  8. 人形茶碗・人形手茶碗  
—考古学的視座からのアプローチ—……………(稲垣正宏)
- 

1990. 3

財団法人 滋賀県文化財保護協会

## 2. 滋賀県下の方形周溝墓の「供献土器」について

吉 田 秀 則

### 1. はじめに

1964年に大場磐雄氏が「東京都八王子発見の方形周溝特殊遺構<sup>注1)</sup>」と称して以来、近年の著しい開発事業に伴う事前発掘調査の激増に伴い「方形周溝墓」の検出例は急増し、弥生時代の代表的墓制としてその分布は東北地方から九州地方にまでいたっている。県下においても服部遺跡・烏丸崎遺跡<sup>注2)</sup>・吉身西遺跡<sup>注3)</sup>などの野洲川左岸流域・越前塚遺跡<sup>注4)</sup>・鴨田遺跡<sup>注5)</sup>・孤塚遺跡<sup>注6)</sup>の立地する長浜平野に代表されるごとく墓域群の検出例が増えている。

しかし、この資料の集積に反してその研究は停滞していると言っても過言ではない。たとえば、「方形周溝墓」という用語の使い方の問題がある。単に周囲に方形の溝をめぐらせるだけでなく、視覚的に見てかなり盛土をもつものや溝が検出されず盛土だけのものの資料が確認されている現実に対して、本来の盛土が削平等によって失われた後の溝の痕跡の形態により名称を使い続けていることに再考を促す必要がさかんに提唱されてはいるが、近年の報告書・論文での使い方はまちまちで統一の見解にはいたっていない<sup>注8)</sup>。

発掘調査から得られる方形周溝墓についての情報としては、後世の削平のため盛土が残っている場合はまれで、それに伴い主体部の残存状況も劣悪であり、人骨、副葬品も皆無である。唯一プランで確認できるのが周溝であるが、その形態分析にしても陸橋部の有無や箇所が本来の姿をどの程度まで残しているのか疑問な場合が多々ある。

また、周溝墓は複数墓で墓域を形成している場合が多く、比較的広い範囲で群単位構成をとらえる必要があり、広範囲の調査面積が必要とされる。

以上の様に発掘調査から得られる資料に限界があり、研究の進展にはどめをかけているのが現状である。

そこで少しでも方形周溝墓研究を進める上で、今回は周溝内から比較的普遍的に出土する「供献土器」に着目し、その器種構成が時期や地域によっていかに異なり、何を意味しているのかをさぐり近江における方形周溝墓の地域性をみてみたい。

### 2. 供献土器の意味

「供献土器」という用語は、各報告書の中で実に曖昧に使用されている場合が多い。「供献土器」と一般に称されているもののあり方には、出土状況の違いから大旨、次の三つの意味合いをもって供献されたと考えられる。

まず、第一に周溝底に正位で置かれたごとく出土する場合で周溝内供献とでも呼ぶべきものである。この場合、検出時にその土器が本来の位置を保ったものか否かの判断が難しい。これには

周溝内に土塊状の掘り方が存在し、主体部として利用されたものへの供献も含まれる（周溝内埋葬）が、東日本においては一般的である。畿内を中心とする西日本での類例は少なく、県下でも周溝内埋葬の可能性のある例が報告されているが、いずれも断定できない。関東地方では、周溝がある程度埋まってから供献が行われたり、あるいは完全に埋まってから供献されたことをうかがわせる例もある（供献A）。

第二に儀礼時に方台部に置かれた土器が、二次的作用により周溝内に落下したものと判断される場合で、あまり土器片が散らばらず土圧により押しつぶされたごとく検出されたり、完形品に近い状況で検出されるものがあてはまる。供献土器の多くがこの状態で出土しており、一般的に埋葬の葬祭儀礼時に主体部周辺を中心に供献された土器と考えられる（供献B）。

そして、第三に破碎された土器が破片となって散らばって検出される場合がある。集落内の日常生活で被葬者が飲食した土器（煮沸具である外面に炭化物の付着した甕類が多く出土する例に象徴される）あるいは葬送儀礼時に使用された土器などのけがれを払うために底部穿孔、破碎行為をうけて投棄されたものと考えられる。また、埋土の上下の異なる層位から土器片が出土する周溝墓については、主体部の数等が検出される場合が少ないので断定できないが、数度にわたって破碎行為が行われたものと推定され、追葬等の可能性も考えられる（供献C）。

以上の三つの供献土器のあり方は、それぞれの場合が単独で実施されたり、二つの場合が併用して実施された場合があると思われる。

### 3. 形式分類

個々の土器を見ていく上でそれぞれの器種について統一的な形式分類を行なうが、ここでは編年観を主眼とするものではないので詳細な分類にはとらわれず、大まかな分類とする。

なお、時期的には畿内Ⅱ～Ⅳ様式併行期を対象とする（第1図）。

#### 広口壺

A類…口縁部が大きく外反し、端部を肥厚あるいは上下に拡張するものである。刻日文・凹線文・櫛描文・列点文等で加飾する。

B類…口縁部が大きく外反するもので、体部中位ないしはやや下位に張りをもつ。外面には櫛描文による加飾が施されている。

C類…「パレス製」を呈するものである。

#### 受口壺

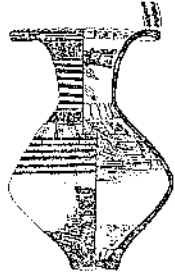
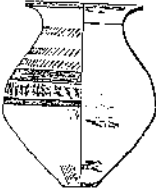
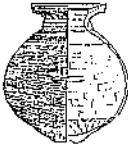
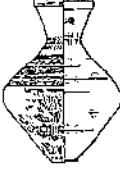
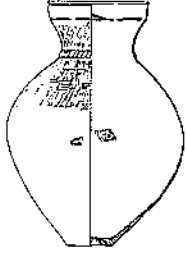
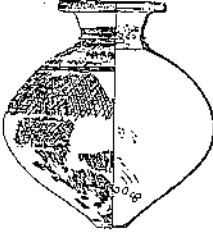

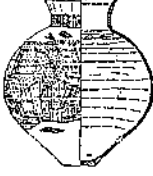
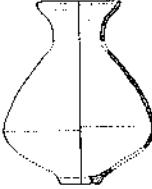

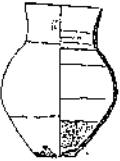

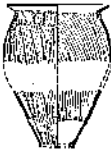

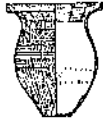

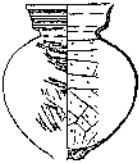

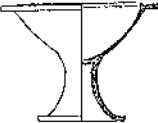
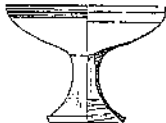
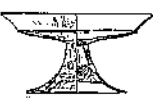







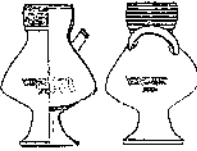

A類…扁平球形の体部に逆八の字状に開く（B類にすらべると直線的）受口状の口縁部が付き、外面は口縁部から肩部にかけて櫛・ヘラ描きで施文される。

B類…倒卵形の体部にゆるやかに受口状に立ち上がる口縁部が付き、口縁外面に凹線文が施されている。頸部の付け根には突帯がめぐる。

C類…「受口状口縁」甕の口縁形態を踏襲するもので、外面に櫛描きによる加飾が施される。

#### 短頸壺

倒卵形の体部にやや内弯気味に短く立ち上がる口縁部が付くものである。

器種	広口壺 A	B	C	受口壺 A	B		
							
器種	C	短頸壺	直口壺	細頸壺 A	B	長頸壺	
							
器種	無頸壺	甕 A	B	C	D	E	
							
器種	高杯 A	B	C	D	E	F	
							
器種	鉢 A	B	器台	蓋	水差形土器	手焙形土器	
							

第1圖 形式分類

### 細頸壺

A類…扁半球形の下ぶくれの体部に逆八の字状に開いて口縁部が内傾気味に立ち上がるものである。口縁部から肩部外面にかけて櫛描文・列点で加飾される。

B類…細い頸部に内弯する口縁部が付き、体部はソロバン玉形を呈するものである。

### 長頸壺

口縁部が長く直線的ないしはやや反するもので倒卵形の体部が付く。

### 無頸壺

口縁部が短く外方へつまみ出され、体部中位に張りをもつものである。

### 甕

A類…くの字状口縁を呈するものである。

B類…口縁部が大きく反外し、外面は粗い八ヶ所調整で虎部には櫛描きにより加飾されるものである。

C類…いわゆる「受口状口縁」を呈するものである。

D類…いわゆる「S字状口縁」を呈するものである。

E類…北陸系の「月影式」甕の影響をうけた二重口縁のものである。

### 高杯

A類…垂下口縁を呈するものである。

B類…浅い椀状の杯部を呈し、外面には凹線文が施されるものである。

C類…直線的な受部に外反して立ち上がる口縁部の付く杯部を呈するものである。

D類…短い受部に大きく直線的にのびる口縁部の付く杯部を有するものである。

E類…短い受部に大きく内弯気味に立ち上がる口縁部の付く杯部を呈するものである。

F類…「ブランドーグラス形」の杯部を有するものである。

### 鉢

A類…「受口状口縁」甕の形態を踏襲するものである。

B類…八の字状に開く体部を呈するものである。

### 器台

八の字状に開く脚部に屈曲して外反する口縁部の付くものである。

### 蓋

外反して大きく開く口縁部を有するものである。

### 手焙形土器

「受口状口縁」鉢にドーム状のおおいを有するものである。

### 水差形土器

やや内弯気味にのびる口縁部外面にソロバン玉形ないしはやや下ぶくれの体部を有するものである。

以上の形式分類に従い、県下で確認されている周溝墓の供献土器について検証を行なった結果を表1-3に示す。

なお、壺、甕等の底部や小破片で器種・形式の曖昧なものについては除去している。

#### 4. 県下の方形周溝墓出例

中期以降の県下の方形周溝墓の検出例について供献土器の出土状況に簡単に触れておく。

##### ①滋賀里遺跡<sup>43)</sup>(大津市滋賀里町)

ⅢFⅣB区において計8基の周溝墓が確認されているが、ⅣB区の3・14号墓は畿内Ⅱ様式併行、11・12号墓は第Ⅳ様式併行、1号墓、ⅢF区墓は布留式併行の土器が出土している(6号墓不明)。土器は完形品が多く、周溝内中位・底より検出されている(第2図)。

##### ②寺中遺跡<sup>44)</sup>(守山市守山町)

計9基の周溝墓(3群)が確認され、1・2・5・7号基からⅡ様式併行の土器が出土している。各1点ずつではあるが、細頸壺A類の出土が共通する(第2図)。方台部規模は一辺6～7m、8m前後、10m前後で、1・6号基に主体部の可能性のある土壁がある。

##### ③石田遺跡<sup>45)</sup>(守山市石田町)

互いに周溝を共有する計4基が確認され、方台部規模は一辺10m前後、10×14mである。土器は周溝底より出土し、残存状況が劣悪である。

##### ④上寺(北太田)遺跡<sup>46)</sup>(草津市上寺町)

中期を中心とする周溝墓が計29基確認され16～22号墓は円弧状に連結し、他の周溝墓もこれに平行に配置する。概報によると供献土器は9・10・26号墓から出土しているが、細頸壺A類に限られる。方台部規模は一辺4～5m、6～7m、8m前後、10m以上である。

##### ⑤内堀遺跡<sup>47)</sup>(八日市市上羽田町)

計8基検出され、方台部規模は一辺7～8m、9mである。土器は壺と甕類が半々程度の割合で出土しているが、他遺跡にくらべ甕類の比率が高い(第2図)。

##### ⑥内池遺跡<sup>48)</sup>(蒲生郡日野町内池)

計5基の周溝墓が接して分布し、規模は一辺7.5m前後、10m、13mである。土器は周溝底近くから出土し、受口壺A類の出土が1・2・4号墓に共通する(第2図)。

##### ⑦吉身西遺跡<sup>49)</sup>(守山市守山町)

昭和60・61年度に実施した調査で計27基の周溝墓が検出され、南南東―北北西に細長い帯状(延長約250m、幅約30mの範囲)に墓域を形成する。大きく北群と南群に分けられ、台状部規模は長辺で12m、9～10m、6～7mに大別され、周溝が全周するもの、三辺をめぐるもの、四辺の溝が独立するものがある。

供献土器は、畿内Ⅳ様式末併用期のもので、残存状況が良好で完形品に近い、周溝底および浮いた状態であることから台状部から転落したものと判断されている(第3図)。

また、昭和63年度には先述の調査区南側の調査が実施され、南群に付随する2基の周溝墓が確認されている。

##### ⑧富波東遺跡<sup>50)</sup>(野洲郡野洲町富波)

トレンチ調査ではあるが、連接して計4基の周溝一部を確認している。そのうち1・2・4号

遺跡名	依口壺			受口壺			直口壺	細頸壺		長頸壺	短頸壺	甕					高杯						鉢	器	器	水器	手形形	時	備	考	時期
	A	B	C	A	B	C		A	B			A	B	A	B	C	D	E	A	B	C	D									
滋賀県甲賀市	3	2																									2			II	
	14	1												1													2			II	
寺	1						1																				1			B	
	2							1																			1				
	5		1												1												2				
	7							1																			1				
	9								2																		2	磨製石剣			
土	10							1																			1			II	
	26							1																			1				
石	1		1												1												2			B	
	2													1													1				
	3	2																									3				
	4		1				1																				2				
内	1	1	2											2	2												7			B	
	2														1												1				
	3																														
	4	1													1												2				
	5																														
	6	1		2			2	1							1												7				
	7																														
	8																														
内	1		1																										1		B
	2		1					1																			2				
	3	1	1																								2				
	4		1																								1				
	5																														
吉野西	1	1	1																								4			IV	
	2														2									1			3				
滋賀県甲賀市	11						5						1	1													8			IV	
	12	1					1																				2				
常盤塚	1														1												1			IV	
	2	2					1								1												4				
古	1	1	2	2											1												6			IV	
	2		2	1																2							5	底面穿孔			
	4		2						1															1			5				
	5		1	1																							2				
	6		1																								1				
	7	2	2	1																					2		7				
	8	1	4	1											1												7				
	9	1	3	2											1	1											7				
	10			1											1	1											3				
	11	1												1													2				
	12			1																								1			
	13			2																								2			
	15	1	1	1												1											5				
	16	1	1																								3				
	17																				1							1			
	21																											1			
22															3					2							6				
25			1																								1				
26			1																								2				

第1表 供献土器の器種構成一覽表(1)

遺跡名	広口壺			受口壺			短頸壺	直口壺	胡瓶		長頸壺	壺					高 杯						弁	器	蓋	水形	手形	計	備 考	時期				
	A	B	C	A	B	C			A	B		A	B	A	B	C	D	E	A	B	C	D									E	F	A	B
法勝寺	1	5			6	1			2	1		2	7	3	7						1	1						32						
	2	2							1	4		1	9		7													24		Ⅱ				
	3					1			2	1			8	6	2						3							24						
奥松戸	4					1																						1		Ⅲ				
	5					1																						1		Ⅲ				
弘川													2		1										1			4	水蒸穿孔	Ⅲ				
	4												1															3						
越前	9					1	1																					3						
	14	1																										1						
	27												1															1						
	34																											1						
	70					1																						1	胴部穿孔					
横秋	1					1	1	1																				3			Ⅴ			
	1					6		1			1				2													11			Ⅴ			
塚	1	1																										1			Ⅴ			
	2	1													1													2			Ⅴ			
	3	1											1															2						
	4	1											1															2						
狐塚	1	1																										2						
	5																											1						
	6	1																										3			Ⅴ			
法勝寺	4	1													1	11	1											3		19	Ⅴ			
	5																																	
奥松戸	1	1																											1		3	Ⅴ		
	1																											2		5	Ⅴ			
埜	2																												1		3			
	3																												6	1	7	Ⅴ		
	4																												2		2			
	5	1																											8		9			
	2	1																											1		1			
田	4	3													1	1														11	2	9	Ⅴ	
	5	1																											1		1			
	8																												14	11	5			
越前	2	2													4	1														1	2	12		
	5																												1		4			
	7																													11	11	2		
	8																													11		1		
	16															1														11		2		
	13																													11	1	1	2	5
	15	1																												11		3		
	16																													3		4		
	17	1																												1	1	4		
	18		1																											1	1	7		
塚	22																													1	1	4		
	23																													1		1		
	25	1																												1		2		
	28																													1	1	2		

第2表 供献土器の器種構成一覽表(2)



遺跡名	広口壺			受口壺			須口壺	細頸壺		長頸壺	甕					高杯						鉢	器台	蓋	水差形	手形形	清	備考	時期		
	A	B	C	A	B	C		A	B		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	F										
越前	35									1																	1				
	36											1	1				(2)			1							5				
	37																1										1				
	40	1											1														2				
	45						1					1															2				
	54	2											2														4				
	58									1							1			2							4				
	59	1											1				1										3				
	60						1			1																	2				
	61									1																	1				
62						1																				1					
65												1														1					
伊勢	1	1					1																				2			庄内	
	2											1			1												2			庄内	
五之里	T4																										16			庄内	
	3											1		4					(1)											庄内	
十里	1	2	2																	3							8			庄	
	2	2																		(1)							3			庄	
	3	2				1														1	1	1	1			1	12	小壺壺4		内	
	4	2										1										1	1				5			内	
	5						1																				1			内	
	6	1																									1			内	
越前	6																										1			庄内	
	11	1																									3	丸底壺1		庄内	
	26																										1			布留	
	38											1	1														3			布留	
67	1																									3			布留		
伊勢(吉身西(飯庄))	住居跡	2				1						3															14			V	
	SH1	1					1					1	5																		
	SH2		1										1	3																	
	SH3													2																	
	SH4		2											2																	
	SK1											1		1																	
	SK4	3										2	1	4																	
	SK5													2																	

第3表 供献土器の器種構成一覽表(3)

墓より土器が出土しているが、4号墓については破砕後のものらしく小破片(壺3・甕1点)である。1号墓出土の甕C類は底部穿孔である(第3図)。

⑨横枕遺跡(守山市守山町)

中期後半以降展開する集落の二ノ畦遺跡に隣接しており、一連の集落とみられる。一辺9mの周溝墓の周溝底より受口壺A～C類が出土し、後期初頭に位置付けられる。なお、体部の無文化傾向の強い(荒いハケ調査)B類の体部に荒い櫛描文(?)が施される。

⑩弘川遺跡(高島郡今津町弘川)

中期の遺跡として竪穴住居跡と方形周溝墓1基・木棺1基が隣接して検出されている。周溝墓は一辺8mで甕A類が同溝底に置かれ、水差形土器は方台部上のものが落下したものと報告されている。

⑪柿堂遺跡(神崎郡能登川町今)

計5基の後期の周溝墓が検出され、規模は一辺10m、12m、13mで、1～3号墓の周溝は中央部に1ないし2箇所の陸橋部をもつ。土器は多くが周溝底で出土し、壺類特に受口壺C類の割合が高い。

⑫伊勢遺跡<sup>12</sup>（守山市伊勢町）

数度にわたり調査が実施されているが、昭和63年度の調査により庄内式併行期の周溝墓2基が検出されている。規模は一辺7m前後で周溝底より土器が出土しているが、在地色を示す土器が含まれない。

⑬五之里遺跡<sup>13</sup>（野洲郡野洲町富波）

Ⅳ様式から庄内式併行期までの周溝墓が計10基確認され、T4～3号墓は土壙墓群と近接し、T5区では5基が周溝を共有する。

⑭国道8号（長浜バイパス）関連遺跡<sup>14</sup>（坂田郡近江町長沢・高溝）

狐塚遺跡で7基、法勝寺遺跡で5基、奥松戸遺跡で6基の計18基が確認されている。そのうち中期（Ⅳ）のものは一辺6m前後、10～13m、後期は5m前後、8m、10～11m、14m以上の規模を有する。土器は法勝寺遺跡の中期のものについて甕類の出土が日立つ。出土状況は周溝底より浮いた状態のものが多く甕類は特に破片が多い（第3図）。

⑮十里町遺跡<sup>15</sup>（長浜市十里町）

幅4mのトレンチ調査ではあるが、計6基の周溝墓が検出され、規模は一辺10～12mで土器の残存状況は良好である。甕類が極端に少なく、方台部から落下したものと理解されている（第3図）。なお、3と4号墓との間で土壙墓（木棺直葬）が検出されている。

⑯鴨田遺跡<sup>16</sup>（長浜市大戌亥町）

計8基が確認されているが、1号墓が中期である以外は後期に位置付けられる。規模は一辺6～9mで比較的近い。土器は4号墓以外は比較的少なく、壺類が中心である。

⑰越前塚遺跡<sup>17</sup>（長浜市加納町）

中期から古墳時代前期までの周溝墓が62基確認され、中期・古墳時代ものは単発的に造営され、後期は4つの群を形成して分布する（第3図）。

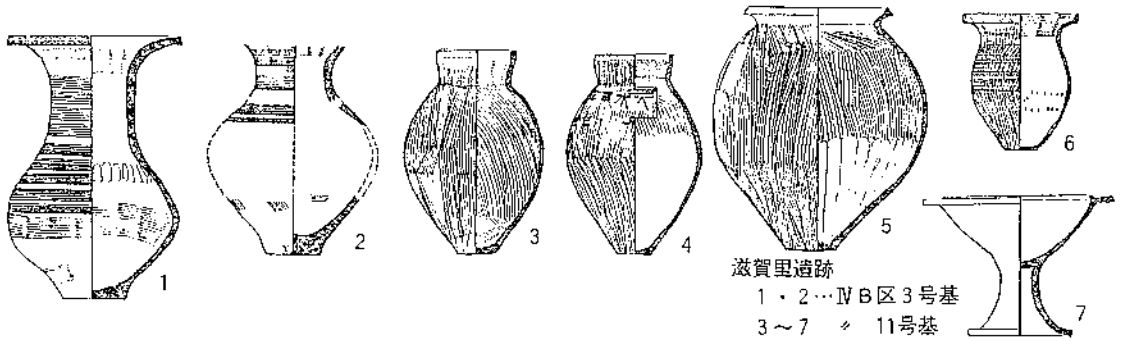
## 5. 供献土器の器種構成と地域性

以上の検出例をもとに器種構成や地域性を考えてみる。

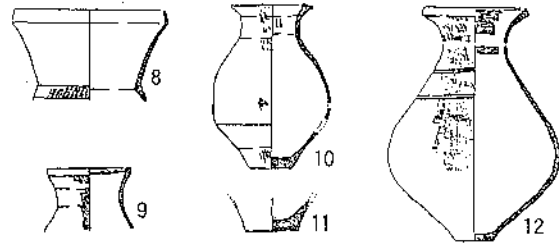
Ⅱ～Ⅲ様式併行期は、湖南・湖東地方に限られてはいるが、供献土器の数量がⅣ様式以降にくらべ全体に少ないことが指摘できる。

器種では壺と甕類の比率に差はないが、壺類では細頸壺A類の比率が高い。また、この時期の土器では残存状況が良好で完形に近い状態で検出される場合が多く、穿孔土器も少ないことが指摘されるが、これは溝内供献（供献A）あるいは方台部上での供献（供献B）が主流であったのかと推察される。

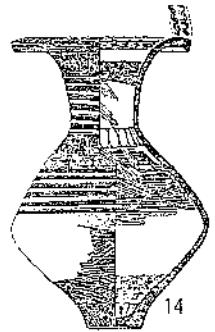
Ⅳ様式併行期になると供献土器の全体量が増える。壺と甕類との比率は壺類が優位となるが、なかでも受口壺A・B類の比率が高く特に吉身西遺跡で顕著である。また、受口壺A類は吉身西



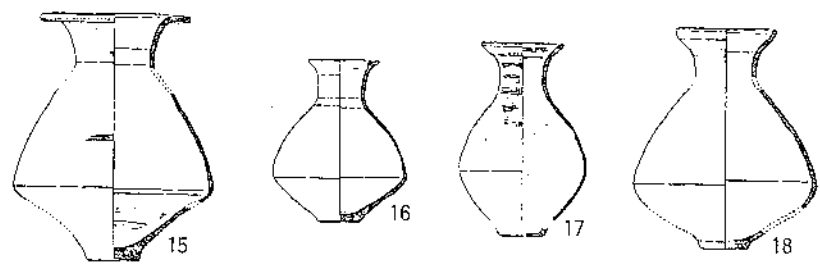
滋賀里遺跡  
 1・2…ⅣB区3号基  
 3～7 …11号基



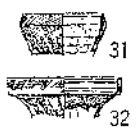
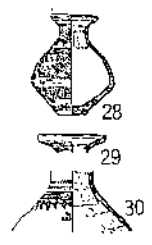
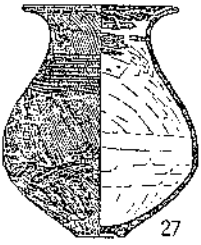
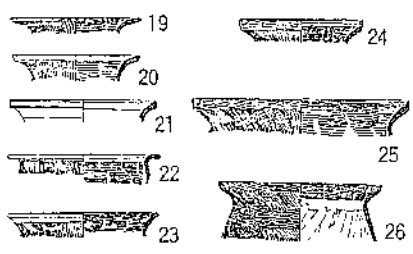
寺中遺跡  
 8・11・13…S X 5  
 9 …S X 1  
 10 …S X 2  
 12 …S X 7



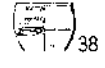
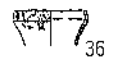
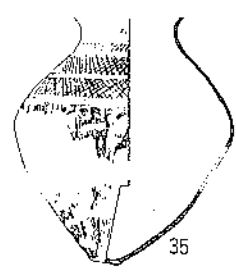
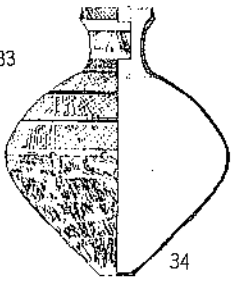
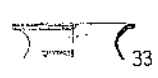
小島遺跡



上寺遺跡  
 15 …10号基  
 16・18…9号基  
 17 …26号基

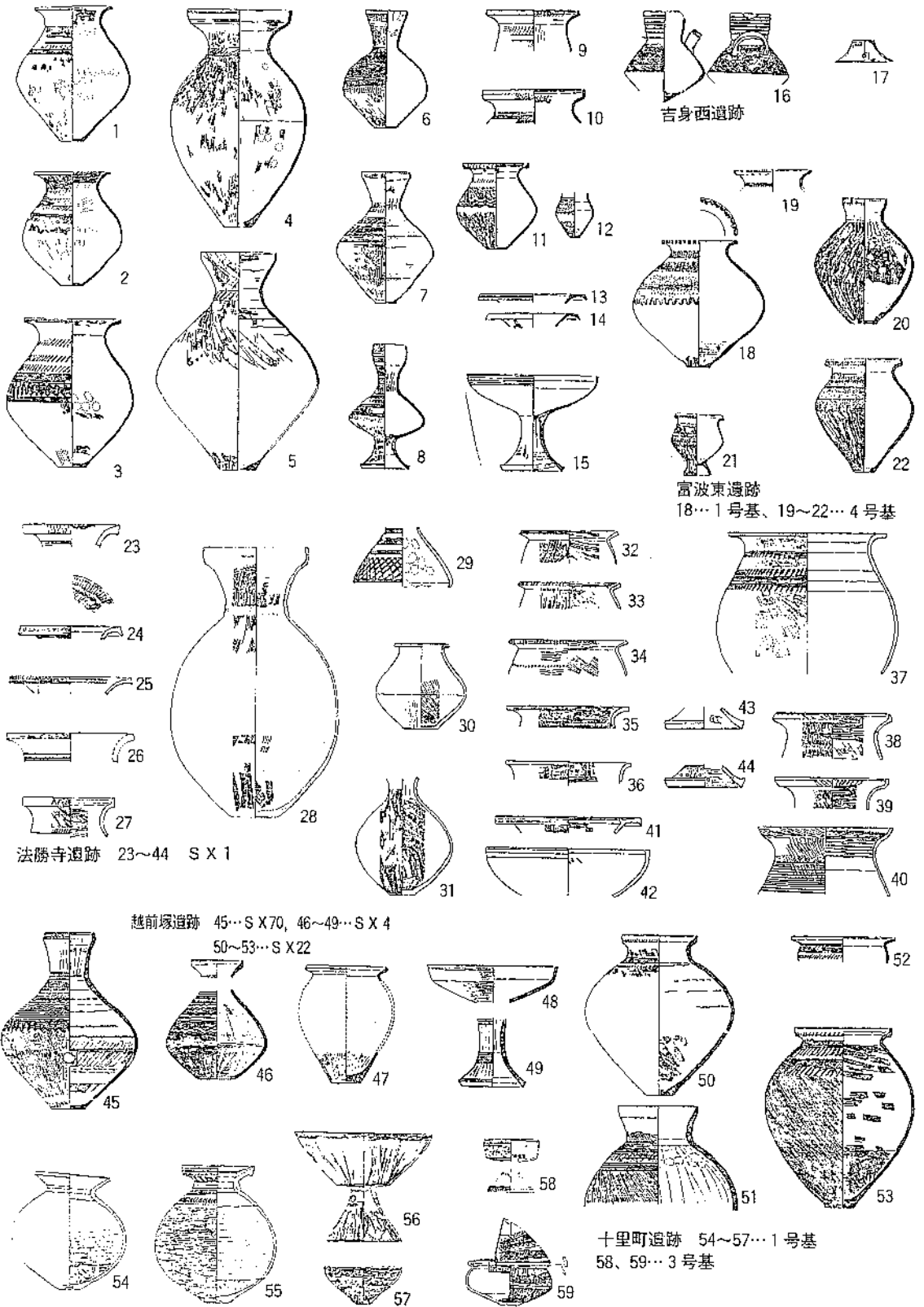


内堀遺跡  
 19～25…1号基  
 26～32…6号基



内池遺跡  
 33・36・37…S X 3  
 34 …S X 1  
 35・38…S X 2

第2図 中期前半の供献土器



第3図 中期後半以降の供献土器

遺跡での住居と墓とからの出土数量を比較すると共に多く、日常的、供献用に関わりなく使用された器種であったと思われる。体部はソロバン玉形で楯描文が多様され、細頸壺A、B類に類似するが、口縁部形態は受口風であり、在地色を示すものであると考えられる。

Ⅲ～Ⅳ様式併行期の内堀・吉身西遺跡の中で広口壺B類の存在に注目してみたい。B類はゆるやかに外反する口縁端部に刻目文・刺突文等を施し、なだらかに体部へ移行して中位ないしやや下位に最大径をもち、外面には甕C類（「受口状口縁」甕）に特有な施文パターン（楯描きによる刺突列点文・直線文・波状文）で加飾されるものである。つまり頸部以下の施文・プロポーションは「受口状口縁」甕の風を呈していることから甕とも呼べなくもないタイプとなっている。<sup>66</sup>他にも服部遺跡甕として中期の周溝墓や烏丸崎遺跡（Ⅲ様式）・小津浜遺跡（Ⅳ様式）・欲賀西遺跡（Ⅳ様式）の資料の中でも実現していることから、B類は供献土器として規定された性格の強い土器であると考えられる。つまり、野洲川流域を中心とした地域で（湖北地方ではあまり見あたらない）在地色を強く誇示する供献土器と思われる。

一方、湖北地方の法勝寺遺跡では供献土器の出土数量が多く、特に甕類が多い。在地系（B・C類）と畿内系（A類）とが共存し、細頸壺も多い。出土状況は周溝底から流いたものがほとんどで、壺類は完形に近いものないしは完形に復元可能なものが多いのに対し、甕類は口縁部のみが多く散乱している。近接する奥松戸遺跡や越前塚遺跡の資料の器種構成とは異なっている。つまり、極論かもしれないが、当遺跡においては壺類は方台部上での儀礼行為に使用され、甕類は日常飲食された土器が数度にわたり破碎されて周溝に投棄されたものかとする（供献C）。

V様式併行期では全体的に数量が多く、一墓域内で特に多い周溝墓が1・2基存在する（柿堂・鴨田・越前塚遺跡）。壺類の比率が高く、高杯類が若干増える。

庄内、布留式併行期以降では、再び供献土器の数量が傾る傾向にあり、受口壺C・甕C類に見られた在地色が失われていく。

また、在地系土器以外の他地域の影響力を示す土器について指摘しておきたい。居住域を構成する一般集落内から出土するこれらの土器とは持つ意味が異なると思われる。

都出比呂志氏によると婚姻居住制論を押し進める上で、大阪府瓜生堂遺跡の共同墓地とされる2号墓の女性被葬者の5号木棺を取り上げてこの女性は他のムラからの移入した人物であり、供献土器や土器棺の中に他地域産の土器が認められるのはこの女性の出身地にちなんで（生前に携えていたり、縁者の参列があった）供献された土器であると考えている。この点について著者は具体的な考えをもちあわせてはいないが、これらの土器の墓からの出土は、被葬者が女性か否かにかかわらず、生前にその他地域との関連が強く密接な関係をもつ人物であったことをうかがわせ、かなりの権力者であったならば何らかの支配力を示すものかもしれない。

十里町遺跡の1号周溝墓はパレス系の広口壺C類、欠山式の影響を受けていると思われる高杯E類が供献土器の大半を占めており、残りの同時期の周溝墓には見られない様相である。この1号周溝墓の被葬者が東海地方と密接なつながりのあったことを示すものとして注目したい。

## 6. まとめとして

中期の前半と後半とでは、供献土器の数量に違いがあり、細頸壺A類の比率の相違が顕著であることからこの時期を機に葬送儀礼そのものの形態に変化が生じたのではないかと予想させる。

後半以降の広口壺類は、「受口状口縁」甕の施文パターンを踏襲しつつ葬送儀礼時の供献用壺として規定された性格の強い土器であり、野洲川流域（一部湖東地方も含む）を中心とした地域性も誇示していないと思われる。後期以降、在地外の他地域の影響を示す供献土器の顕著な墓があり、それは被葬者とその地域との生前のつながりを示すものであると理解される。

県下の供献土器の器種構成、地域性について大雑把に見てみたが、著者の資料操作の不充分さから曖昧なものとなっていることは反省するところである。未発表資料や今後の資料の増加をふまえて再考する必要があると考えている。

また、扱った資料は報告書から読みとったものが大多数であるが、その記述には出土状況や位置の不明瞭なものが多く、供献形態の詳細を明らかにするには不十分である。今後の土器の取り上げ方に再考をうながすものである。

### 注

- (1) 大場磐雄「方形周溝墓」『日本の考古学』Ⅲ月報 3
- (2) 『服部遺跡発掘調査概報』滋賀県教育委員会・守山市教育委員会 1979
- (3) 昭和59年度から平成元年度までの調査で烏丸半島の先端部から付根まで600m以上×120mの範囲に中期の方形周溝墓数百基が築造されていると推定されている。
- (4) 『古身西遺跡発掘調査報告書』守山市文化財調査報告書第32冊 守山市教育委員会・守山市立埋蔵文化財センター 1988・3
- (5) 『越前塚遺跡発掘調査報告書』長浜市埋蔵文化財調査資料第5集 長浜市教育委員会 1988・3
- (6) 「鴨田遺跡第4次調査」『十里町遺跡・鴨田遺跡調査』長浜市埋蔵文化財調査資料第4集 長浜市教育委員会 1988・3
- (7) 『一般国道8号（長浜バイパス）関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ』滋賀県教育委員会（助）滋賀県文化財保護協会 1987～1989
- (8) 桑原隆博「周溝墓—方形周溝墓を中心に—」『特集弥生時代の墳墓』考古学ジャーナル No.302 1989
- (9) 伊藤敏行「東京湾西岸流域における方形周溝墓の研究Ⅱ」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』Ⅵ 1988
- (10) 田代克己「いわゆる方形周溝墓の供献土器について」『村落構造と他界観—烏越憲三郎先生古稀記念論集』雄山閣 1986
- (11) 近刊予定の「近畿編—Ⅱ」『弥生土器の様式と編年』の兼康保明氏の編年観によるところが大きい。

- (12) 『湖西線関係遺跡調査報告書』湖西線関係遺跡発掘調査団 1973
- (13) 岩崎 茂「寺中遺跡の調査」『守山市遺跡発掘調査報告書』守山市文化財調査報告書第11冊  
守山市教育委員会 1982
- (14) 仲川 靖『石田遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会 (財)滋賀県文化財保護協会 1985
- (15) 『上寺遺跡発掘調査概要報告書』草津市教育委員会 1986
- (16) 「内堀遺跡」『内堀遺跡・後藤館遺跡発掘調査報告書』八日市市文化財調査報告(2) 八日市  
市教育委員会 1983・3
- (17) 「内池遺跡」『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書X-5-2』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県  
文化財保護協会 1982
- (18) 「富波東遺跡(1)」『昭和60年度野洲町遺跡群発掘調査概要』野洲町教育委員会 1986・3
- (19) 『横枕遺跡発掘調査報告書』守山市文化財調査報告書第34冊 守山市教育委員会 守山市埋  
藏文化財センター 1989・3
- (20) 「高島郡今津町弘川遺跡」『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ-3』滋賀県教育委員会・  
(財)滋賀県文化財保護協会 1981
- (21) 「柿堂遺跡」『能登川町文化財調査報告書第8集』能登川町教育委員会 昭和62年3月
- (22) 「伊勢遺跡発掘調査」『守山市文化財調査報告書第33冊』守山市教育委員会 守山市立埋藏  
文化財センター 1989・3
- (23) 「野洲郡野洲町五之里遺跡発掘調査報告」『昭和五十一年度滋賀県文化財調査年報』滋賀県  
教育委員会 (財)滋賀県文化財調査保護協会
- (24) 口縁部形状により平坦面をもっておわるものと上方へわずかにつまみ出されるものとに細分  
可能である。
- (25) 「小津浜遺跡」『文化財調査出土遺物仮収納保管業務昭和62年発掘調査概要』滋賀県教育委  
員会 (財)滋賀県文化財保護協会 1988・3
- (26) 平成元年度の調査で中期の方形周溝内より高杯A類と共伴している。
- (27) 都出比呂志「土器の地域色と通婚圏」『日本農耕社会の成立過程』岩波書店 1989

## 編集後記

本号には8編の論考を掲載することができました。職員の頑張りに頭が下がる思いです。ただ、少し気になることは、既刊寄稿者が多いということです。次号への課題といたしたいと思います。

翌年度は協会設立20周年。さらなる充実を期し、思いを新たにして出発いたします。今後ともご協力のほど、宜しくお願いします。  
(普及啓発事業担当)

平成2年3月

### 紀 要 第 3 号

編集・発行 財団法人滋賀県文化財保護協会  
大津市瀬田南大菴町1732-2  
TEL(0775)48-9780・9781

印 刷 大津紙業写真印刷株式会社  
大津市月輪三丁目9-33  
TEL(0775)44-0190(代)